

製品名: TIP49A (9Z11) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18959**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	RUVBL1
別名	ECP54; Pontin 52; PONTIN; RuvB like 1; RUVBL1; RVB1; TAP54 alpha; TIP49; TIP49a;
遺伝子 ID	8607.0
SwissProt ID	Q9Y265
免疫原	ヒト TIP49A の合成ペプチド

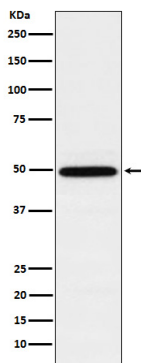
背景

一本鎖 DNA 刺激性 ATPase および ATP 依存性 DNA ヘリカーゼ (3'→5') 活性を有する。NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素であり、主にヌクレオソームヒストン H4 および H2A のアセチル化によって特定の遺伝子の転写活性化に関与する。一本鎖 DNA 刺激性 ATPase および ATP 依存性 DNA ヘリカーゼ (3'→5') 活性を有する。六量体形成は ATP 加水分解に不可欠であると考えられており、環状構造の隣接サブユニットが ATPase 活性に寄与する (PubMed:17157868)。NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素であり、主にヌクレオソームヒストン H4 および H2A のアセチル化によって特定の遺伝子の転写活性化に関与する (PubMed:14966270)。この修飾は、ヌクレオソーム-DNA 相互作用を変化させ、修飾されたヒストンと転写を正に制御する他のタンパク質との相互作用を促進する可能性がある (PubMed:14966270)。この複合体は、がん遺伝子およびプロトがん遺伝子を介した増殖誘導、腫瘍抑制因子を介した増殖停止および複製老化、アポトーシス、および DNA 修復に関連する転写プログラムの活性化に必要である可能性がある (PubMed:14966270)。NuA4 複合体の ATPase およびヘリカーゼ活性は、少なくとも部分的には、RUVBL1 および RUVBL2 と EP400 の結合に寄与していると思われる。NuA4 は、DNA 損傷部位にリクルートされると、DNA 修復に直接的な役割を果たす可能性がある (PubMed:14966270)。ヌクレオソームからのヒストン H2A.Z/H2AZ1 の除去を特異的に媒介する SWR1 様複合体の構成要素である (PubMed:24463511)。クロマチンリモデリング複合体 INO80 の中核成分として提案されている。DNA およびヌクレオソーム活性化 ATPase 活性を示し、ATP 依存性ヌクレオソームスライディングを触媒する (PubMed:16230350、PubMed:21303910)。MYC による癌化において重要な役割を果たすほか、LEF1/TCF1-CTNNB1 複合体による転写活性化も調節する (PubMed:10882073、PubMed:16014379)。細胞増殖に必須である (PubMed:14506706)。細胞表面でプラスミノゲンに結合し、プラスミノゲン活性化を促進する可能性がある (PubMed:11027681)。

研究分野

-

画像データ



K562 細胞溶解物中の TIP49A 発現のウェスタン ブロット解析。